こうすりゃ～ええ農（のう） vol.25

Agricultural news

このコーナーでは、
農業のちょっとしたこつを、
市の営農指導員から
お知らせします。

営農指導員のワンポイントアドバイス

営農指導員　若山（わかやま）　譲（ゆずる）

“故事・ことわざ”から農業を学びましょう!!

土壌肥料と栽培管理に関連する〝故事・ことわざ〟が各地域に伝えられています。内容をよく吟味してみる必要はありますが、農業のこつを学ぶことができます。

土づくり関係

▼精農は土をつくる　熱心な農家は土づくりを重視する　**▼駄農は草をつくる**　管理が行き届かないと雑草はよく生えるが、作物はとれていない　**▼作を肥やさず土を肥やせ**　作物をよく育てるには、土づくりが必要である　**▼山が里に下ると作が良い**　野山の草に例え、有機物施用の土づくりで増収する　**▼肥料より鍬**　肥料をたくさんやるよりも、よく耕して土づくりをするほうが大切である

肥料資材、施肥関係

▼千駄の肥より一時の季　肥料は一度に多量に施すより、適期適量施用の方が効果がある　**▼魚肥は一服吸う間に効く**　魚肥は成分が多く肥効も早い　**▼灰は白く焼くより黒く焼け**　白くなるまで焼くと不溶性になり肥効が劣る　**▼瓜に砂糖肥**　砂糖を肥として施しても甘い瓜はできない。無駄なことはしない

栽培関係管理

▼肥よりも鍬、七度削れば肥いらず　除草、中耕、土寄せなど管理の大切さをいう　**▼田畑の肥は主人の足跡**　作物の管理をよくする方が肥より大切である　**▼一年草取らぬと九年のわずらい**　雑草はよく取らないと、いつまでも害するものである　**▼苗半作**　苗の良否は収量の半分を決める。健苗の必要をいう　**▼大苗に豊作なし**　苗は伸び過ぎるものを植えると、収量が上がらない　**▼夏作は布子を着せよ、冬作にはかたびらを着せよ**　夏作には土を厚くかけ、冬作にはあまりかけない　**▼野菜づくりの野良荒し**　細かい事に熱心になると、全体が手ぬかりになる　**▼ナスは友露受けねば千なる**　ナスは密植しなければ収穫が多い　**▼根程葉拡がる**　根の拡がりほど枝葉は茂る。根を養わないと枝葉は伸びない

以上、一部ではありますが、紹介しました。最後に、作物栽培には土づくりが重要であることから〝**人が土を守れば、土が人を守る**〟を付け加えます。

問い合わせ
農業振興課農業振興係
☎0824-73-1132

比婆いざなみ街道物語

第1話

高野町から比和町・西城町を経由して東城町までを結ぶ〝比婆いざなみ街道〟。

景観・食そして人など、街道沿線に存在するさまざまな資源をシリーズでお伝えします。

“比婆いざなみ街道”とは

本市の北部に位置し、東西に貫く総延長61・4キロメートルの街道です。

沿線の各地域に存在する多様な資源を一体的な地域ブランドとして発信するため、平成27年に高野インターチェンジから西城町・熊野神社前を経由して東城インターチェンジに至る路線を〝比婆いざなみ街道〟として設定しました。

この沿線地域の資源を生かした観光振興やにぎわい創出、交流・定住を促進するため、資源活用に関する方向性や施策・事業などを整理した「比婆いざなみ街道物語（庄原市北部資源活用計画）」に基づき、取り組みを進めています。

日本誕生の女神 イザナミノミコト

〝イザナミノミコト〟は日本神話の女神であり、8世紀に編さんされた日本最古の歴史書『古事記』にその名が記されています。

『古事記』の記述によると、夫である〝イザナキノミコト〟とともに、日本国土を形づくる多数の島（淡路島・隠岐島からやがて日本列島）を生み、さらに山・海など多くの神々を生んだとされています。

その後、亡くなった際、そのなきがらは出雲国と伯伎国（伯耆）との境の「比婆之山（ひばのやま）」に葬られたとされており、この「比婆之山」は、本市と島根県安来市に所在するいずれも「比婆山」の2説が有力とされています。本市の比婆山御陵は、〝美古登（みこと）山〟とも称され、山頂には〝イザナミノミコト〟の陵墓とも伝えられる苔むした巨石が横たわっています。

比婆山御陵

問い合わせ
いちばんづくり課いちばんづくり係
☎0824-73-1278